

| | |
|--------|------------|
| 作成日 | 2019年6月26日 |
| 学科・専攻名 | 現代社会学科 |

教育課程・学習成果

1. 教育課程編成・実施の方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していますか。

【現状説明】

現代社会学科では、教育課程編成・実施の方針に基づき、自然科学から人文・社会科学までの幅広い分野について、現代社会に必要な学際的な視野を身につけ、同時に各自が選択し専門とする個別分野における極めて高い達成を可能にするよう、「現代社会専攻」「国際社会専攻」「情報システム専攻」からなる体系的な教育課程を編成し実施している。教育課程は共通領域科目と専門領域科目からなり、いずれも1年次から順次積み上げる形で履修する。また、1～3年次に積み上げる形で外国語、情報、調査に関するスキル科目を配している。共通領域科目は仏教学、言語コミュニケーション科目、情報コミュニケーション科目、教養科目、健康科学科目、キャリア教育科目からなり、専門領域には、1年次には現代社会に関する基礎的な内容と各分野に関わる導入科目を配置している。また外国語、情報、調査の各項目に関わるスキル科目、7つの専門分野に分かれたクラスター科目、1～4年次を通して小人数でプレゼンテーションや質疑応答・対話のスキルを向上させつつレジュメやレポート作成能力を身につける演習科目（必修）が配されている。加えて、希望者は「国際理解」「情報」「社会調査」「ビジネス」の各プログラム科目を履修してより深い学びを実現することができる。これらの達成の成果として、最終的に卒業論文を仕上げることにより、学位を取得する。資格取得に関しては、教員免許、社会調査士、社会調査実務士、情報処理士、上級情報処理士などに必要な科目が開設されている。本学科の教育目標と、設置されている授業科目との関係については、カリキュラムマップなどを通じて十分に説明されている。

【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

2. 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための措置を講じていますか。

【現状説明】

本学科では、教育目標達成のため、全年次において1クラス10-15名程度（最大20名）の演習科目を必修科目として配置している。1年次前期の基礎演習では共通の教科書を用いるなどして、初年次教育に配慮して教育内容の充実を図っている。1年次後期以降の演習科目では、少人数教育に基づき、発表や討論などによる主体的な学びを行う中で、学生はアカデミック・スキルを習得する。また2年次以降に配された専門外国語系科目、社会調査系科目などでも少人数クラスできめ細かな指導を行い、最終的な学習成果である卒業論文の作成へと繋げている。また、多数の履修者がいる科目では複数開講により受講人数の適正化に努め、またグループワークやコメントシートなどを利用した、学生による主体的な学びを喚起する取り組みを行っている。履修指導については、必要に応じて個々の学生のGPAに基づき実施しており、「京女ポータル」上のLMSや学習ポートフォリオの利用も行っている。

【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

3. 学生の学修成果を把握し、教育課程及びその内容、方法の適切性についての点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに教育の質向上に向けた取り組みを行っていますか。

【現状説明】

学習成果を測定する評価指標として、本学科では累積 GPA、就職率、進学率、退学率を用いている。本学科の2019年3月卒業者については、累積 GPA が平均 3.00 と前年の 2.61 から大きく向上している。就職率は 86.2% と前年度の 89.4% よりやや低下したものの、進学率は 3.5% と 1.4% から上昇し両者を合わせるとほぼ同水準といえる。退学率は 2.2% と前年度の 3.8% から低下しており、概ね教育目標に沿った成果が上がっている。教育課程及びその内容、方法の適切性については、授業評価アンケートや学生生活実態調査から検証している。授業評価アンケートについては、各教員はアンケート結果に対する「授業評価所見」を公表しているが、個人での検証に留まっており学科として組織的な検証に取り組むことが課題である。また 2019 年度学生生活実態調査結果では、カリキュラムや講義内容についての満足度（P182、194）が他学科と比べて低い数値となっている。また、専門科目・少数科目の充実度に対する満足度が低い（P77、83）。一方、成長実感については、1 年次で他学科より低いものの、4 年次には他学科と同程度の数字になっている。本学科の幅広い学習分野が、学生の成長という効果として現われるのに時間がかかることが伺われ、全学年対象の満足度調査の低い値に影響している可能性がある。これらの課題に対し、毎年度、次年度の時間割を作成する作業の際に、各科目の受講者数の確認、カリキュラムの妥当性、担当者の選定などを学科内の教務委員会および学科会議で検証している。また、原則 4 年に 1 度実施されるカリキュラム改革において、全学の教務委員会あるいはワーキンググループで全学的観点からも検証している。その他の改善に結びつける取り組みとしては、全学の FD 講演会、学科内の FD 研究会（教員によるグループワーク等）、FD 交流会（事例発表）、公開授業への参加、学外の FD 関連研修・講演会への個別参加等を通して行っている。

【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

講義内容に対する満足度が低いため、内容の見直しとカリキュラムの再検討が必要である。2019 年度、学科の将来構想ワーキンググループを設置し、現状のカリキュラムについての問題点を抽出し、その改定に向けての検討を行っている。

教員・教員組織、FD

1. 教員組織の編成(募集・採用・昇任等)にあたって、職位構成および年齢構成の偏りに配慮した編成をおこなっていますか。また、カリキュラムに基づく教員組織となっていますか。

【現状説明】

本学科の 2019 年度における、教員数は 30 人、年齢構成は 60 代 2 名、50 代 12 名、40 代 10 名、30 代 4 名、20 代 1 名、男女比は 18/12、教授 17 人、准教授 8 人、講師 1 人、助教 4 人という構成である。外国人教員が 2018 年度に 2 名着任したことで、教員の職階バランスが改善している。年齢的には中堅が分厚く 20 代も含む優れたバランスとなっている。しかし、今後は分厚い中堅層が年を重ねていくため、計画的に若手教員の採用を目指すべきである。

学科のカリキュラム・ポリシーを踏まえ、人間・環境、心理・文化、家族・地域社会、政治・公共政策、経済・ビジネス、情報、国際社会の各分野の教育課程・開講科目に対して、各分野を専門とする教員を配置しており、担当科目と各研究分野が整合するものとなっている。

【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項無し

【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項無し

2. 学科・専攻独自の FD 活動を実施し、教員の資質向上に取り組んでいますか。

【現状説明】

2018 年度は学科独自 FD として、基礎演習で使うテキストの検討という内容で実施した。教員の参加状況は 30 人中平均 27 人（学科教員中 90%）であった。また、履修指導等の教育活動の方策の向上に関しては、学科会議で教員間の情報交換を適宜行っている。

【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項無し

【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

基礎演習で使用する共通テキストを作成する。

内部評価委員会からの評価結果（内部評価結果レポート）

| |
|---|
| 一般的なコメント（総評） |
| 課題が的確に認識され、改善・達成に向けた適切な対応がなされていると評価できます。 |
| 改善勧告コメント（具体的な改善の指示） |
| アンケート結果に対する「授業評価所見」について、学科としての組織的な検証に取り組むことが課題であることや、カリキュラムや講義内容についての満足度が他学科と比べて低い数値となっていることに言及されているものの、その対策が明示されていないので、具体的な方策を記載して下さい。 |

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

| |
|---|
| 意見 |
| 2019 年度、学科の将来構想ワーキンググループを設置し、現状のカリキュラムについての問題点を抽出し、その改定に向けての検討を行っている。 |